

天滝の麓に三階建ての家並み  
山と養蚕で栄えた行まいに  
独特の建築文化を見る

# 裏路地探険

山間のノスタルジック路地／大屋町

ノスタルジックな雰囲気がい、独自の文化を感じさせる町並み。大屋町役場から西へ約4km、目の前に迫ってくるような山合いの旧道に沿って、筏の集落が東西に続きます。

筏には3本の川が合流しています。標高1510m、ブナの原生林

に豊富な水をたたえる氷ノ山を源とする大屋川。「日本の滝百選」のひとつ、名瀑・天滝から流れ出る天谷川。さらに、藤無山から流れ出る佐治見川です。昔は豊かな水量を誇り、文字通り材木の集散地であったでしょう。筏の地名はそんなところからついたといえます。木挽職人や牛馬を引いていた往時が目に浮かぶようです。興味深いのは、筏に住む人々のおよそ8割が中尾姓ということ。混乱を避けるために昔から屋号で呼び合い、現在でも通用します。糶屋・まんじゅう屋・タイヤキ屋・わた屋は職業と関係があります。そうです。いずし屋・吉野屋・大塚屋は地名を、寺坂や谷口屋は位置をそれぞれ暗示しているようです。

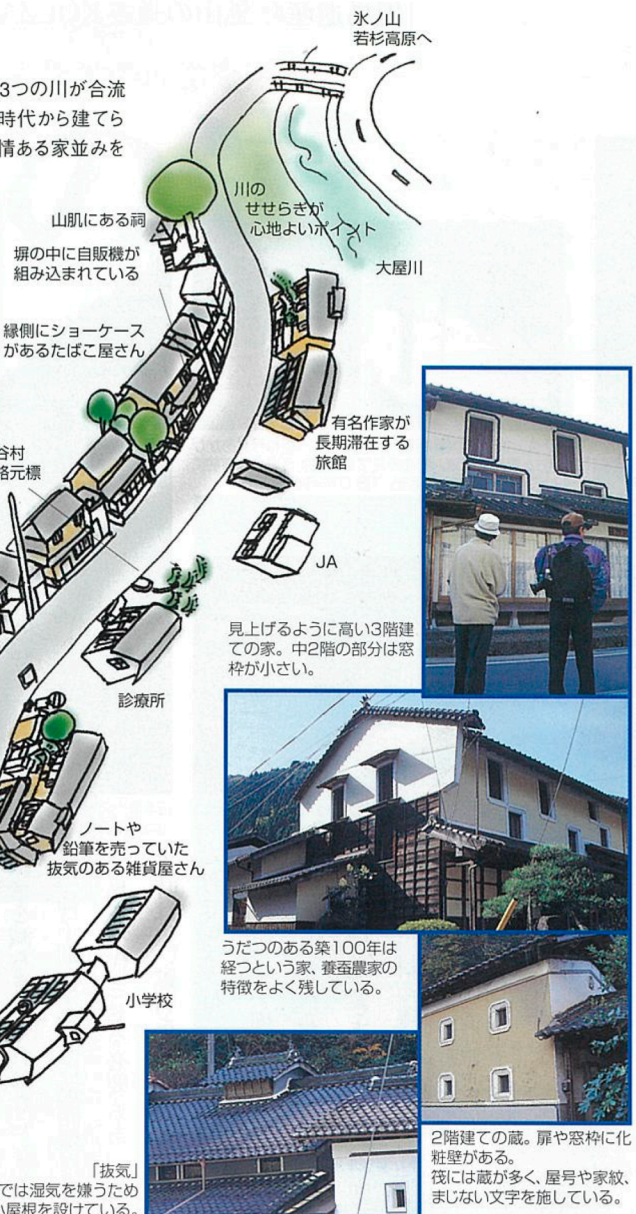
江戸時代、但馬に養蚕の技術をひろめた上垣守国は、すぐ東隣の蔵垣で生まれました。急峻な地形に少ない耕地、人々は養蚕に力を注ぎました。一見すると2階建てで中に入ると3階建になっているという特徴が養蚕農家にはあります。最盛期には家族の寝る場所をかるうじて確保し、後はすべて蚕のための部屋だったといえます。

## 大屋町筏

西谷地区の中心、大屋川・天谷川・佐治見川と3つの川が合流する地点にあり、山と養蚕で栄えてきた。大正時代から建てられた3階建ての養蚕農家が多く残り、独特の風情ある家並みをつくり出している。



探険隊、天谷川を渡って筏の家並みに行く。



筏ではその様式を伝える家並みが集中してあります。「抜気」と呼ばれる換気的设计もまだ見られます。落ち着きと歴史の存在感を私たちに語りかけてくるようです。大正時代に2回の大火があり、その後、建築した家もまた絵になる不思議さがあります。

木材で栄えた村だからこそ、といえるもの。例えば、柱や梁の大きさ、材質(種類)、技術面などです。窓枠や軒下の装飾的な施し、土壁や白壁にある鍔絵、恵比須や小植をあしらった瓦など、住む人の美意識、豊かさを伺い知ることができます。

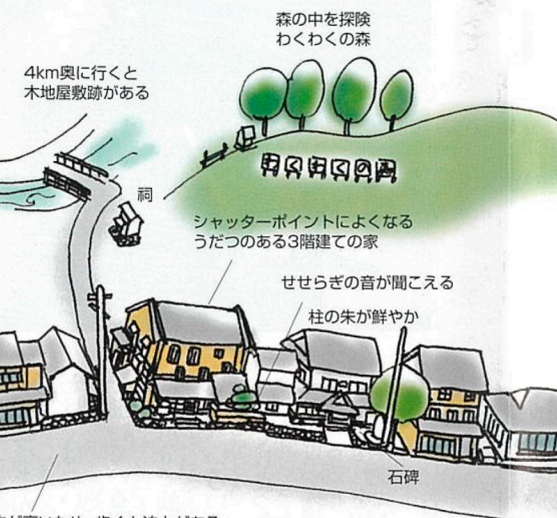
また、何年前ならどここの家にもあった戸袋、縁の下で飼っていた鶏の小屋跡、農具を入れる板戸の細工もあり、タイムスリップをしたような、なつかしさと安堵感に包まれます。

明治になってからは、西谷地区の中心となり、小学校、JA、郵便局、診療所などが整備されました。警鐘台が今なお、その佇まいを残し、村全体を見守っています。



「水」の文字を刻んだ瓦

雨戸を収納する戸袋



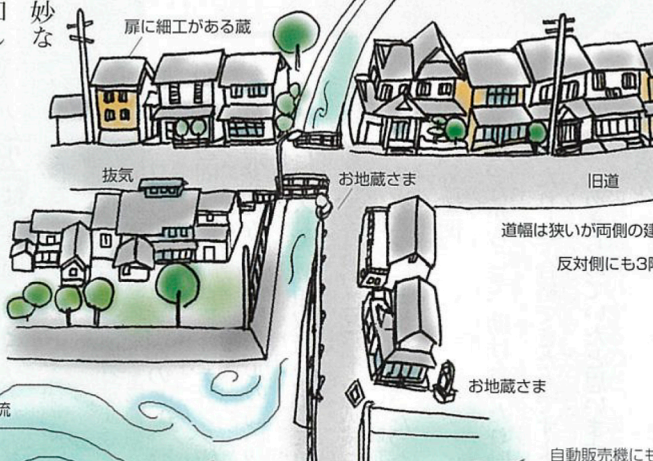
4km奥に行くと木地屋敷跡がある

森の中を探険わくわくの森

シャッターポイントによくなるうだつのある3階建ての家

せせらぎの音が聞こえる

柱の朱が鮮やか



扉に細工がある蔵

佐治見川澄んだ清らかな流れ

道幅は狭いが両側の建物が高いため、歩くと迫力がある

反対側にも3階建ての家が建ち並ぶ

お地蔵さま

自動販売機にも瓦の屋根家の塀に組み込んである。

かつての郵便局の「昭和館」の文字。



家の軒下にあるバス停の標識。



「西谷村道路元標」明治4年の文字が刻まれている。



龍と亀を描いた蔵の化粧壁。



「歴史は語り継ぐことが大切」と、案内をさせていただいた大屋町役場、可史編集室の岩見清さん。

●裏路地探険隊員募集  
4月23日(日)香住町(一市地区)探険  
漁師町の港のある風景を歩きます。  
\*実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ住所・氏名・年齢・電話番号を記入の上、ハガキでお申し込みください。